

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 2 階)

事業所番号	0270101835		
法人名	㈱三協ホーム		
事業所名	グループホーム 善知鳥サニーライフ		
所在地	青森市佃2丁目20-18		
自己評価作成日	平成22年12月14日	評価結果市町村受理日	平成23年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入浴日以外の足浴を実施し、清潔にする事で「心地よい」生活を送って頂けるようにしている。
丸つけ運動を自主的に入居者様に行なっていただく事で、日にちの確認および運動を行なって頂けるよう工夫している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
【評価機関概要(評価機関記入)】	
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年1月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 平成22年12月14日	「その人らしく たのしく しあわせに」の理念を意識し、実践に繋げている。 また、個々のユニットごとに介護理念を決めており、2階では「目くばり 気くばり おもいやり」を掲げ、リビングにいつでも確認できるよう掲示している。		
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域の方々のご協力により、ホーム前の花壇作りを行って頂いている。また、町会の方と避難訓練を実施している。		
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、グループホームの役割等、説明し理解を頂いている。また、町会役員の方や民生委員に認知症や介護において困っている方々への相談を行っている事をお伝えしている。近隣の方の介護についての相談もある。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様・ご家族・地域住民・地域包括支援センター・経営者の参加を継続して頂いており、資料提供をしながら、色々な意見を出し合い運営に結びつけている。		
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時、地域包括支援センター職員に参加して頂き、助言・相談を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>研修や内部研修にて、身体拘束について理解を深め、職員全員で実践に取り組んでいる。また、玄関は自由に出入りできるよう鍵をかけず、見守りし、安心して生活して頂けるよう配慮しながら工夫し、取り組んでいる。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>会議時、資料をもとに「虐待とはなにか」について話し合いを持ったり、内部研修や外部での研修会に参加して理解を深めている。また、認知症ケアマニュアルを用意し、いつでも全職員が見れる場所に置いてある。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護・成年後見制度について、マニュアルを準備し、全職員が見れる場所に置いてある。現在、入居者様には利用される方は居られないが、今後、必要な方が居られれば支援する。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、本人様・ご家族様等へ当事業所の理念やケア方針を説明し、重要事項についても説明を行っている。また、入居後でも、今後について相談があれば、その都度支援している。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様等からの苦情受付の体制に関して、重要事項説明において明記し、国保連・市の介護保険課でも苦情受付している事を伝えている。また、面会時に記入していただく「面会用紙」にも改善を求めたい点を記入できるように工夫している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新しく入居される方の受け入れ時には、入所申し込み時のアセスメント等を参考にしながら、ユニット全職員で話し合いを行い、意見を反映させている。また、月1回の会議時に、ユニットの目標を職員が交代で目標設定を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員からの現場の意見に耳を傾け、給与、シフト、手当等の反映に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の促しや、内部へのおとしこみの実施を促し、技術向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	「青森の認知症ケアを考える会」に参加し、他GHに見学に行き、オリジナルの書式において、自己評価・相互評価を1年に1回、職員が参加し情報交換する機会を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談に来られる際、実際にご本人様が見学して頂けるよう声を掛けています。また、入居後のアセスメントにおいても、ご本人様の要望や困っている事などを把握できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様のキーパーソン・ご本人様・管理者・ケアマネ・担当職員が参加し、今後のサービスについて入居後のサービス担当者会議を開催し、意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様等の思いを明確にし、当事業所で支援できるサービスを含め説明し、必要時には関係機関に相談を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様との信頼関係作りに努めながら、ご本人様のストレングスとなるような強みや趣味活動等を把握し、援助するよう心がけている。だが、全入居者様に対して全職員が、信頼関係が築けているとは言えず、今後も努力していきたい。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との絆・信頼関係を大切にし、24時間面会できるよう重要事項で説明		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生まれ育った土地で、その中でも行きたい所、墓参り等へ出かけたり、本人・家族との手紙、電話のやりとりを継続できるよう支援している。また、いつでも面会できるよう、重要事項説明時にも説明している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、一人ひとりが孤立しないようお手伝いや、月1回のレクリエーション、おやつ作りを行い、みんなで楽しめる取り組みを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHを退所された後の入所先を支援したり、相談先として関係の継続に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを活用しながら、ご家族様からも情報収集を心がけ、ご入居者様の視点に立ち、理解深められるよう配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにおいて、ご本人様とご家族様の了承を得て、プライバシーに配慮しながら、ご本人様の生活歴やライフスタイル、入居前の生活環境などを把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方々の残存機能を活かした、出来ること・出来ないことを個々に把握し、力の発揮を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランをもとに、ご本人様・ご家族様・管理者・ケアマネ・担当職員の参加するサービス担当者会議にて意見交換をし、利用者本位のサービス計画を行なっている。モニタリングを3ヶ月に1回、介護計画書を半年に1回作成し、ご本人様にとってより良い生活を目標としている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書、モニタリングを各担当職員が記入をすることにより、気づきやケアの目的・理解を共有し、24時間心身の状況や変化を記録し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の方や町会役員の方々や地域のボランティアの方々の出入りをしていただき利用者と地域の『架け橋』として多大なご協力をいただいている。また、地域の冬祭り・盆踊り・秋祭り等への参加をしている。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用時や内科以外の診療が必要とされた場合、本人・家族に相談しかかりつけの医療機関やなじみのある医療機関を受診できるよう配慮をしている。また、家族との通院をしていただいている利用者もあり、家族をととしての医療機関との情報共有も行っている。		
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携の体制をとっており、2週間ごとの本人の体調や受診時の変化等を報告し相談を行っている。利用者も体調不安などがある場合には、訪問された顔なじみの看護師に積極的に相談されている場面がみられている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合、どのような療養がとられるのか、また今後の生活に関してもケアを行う上での情報などを、担当の医師または看護師などから情報交換がなされている。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ご本人様・ご家族様へ指針を伝え、家族本人の意見に沿うようにしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法講習会に職員が参加し、講習終了証を頂いている。また、申し送りや業務日誌において一目で見やすいように工夫している。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をとおして、職員の対応の確認や、マニュアルの変更等を行なっている。また、今年はGHの避難訓練の研修会に参加し、伝達研修を行なうとともに、消防職員も参加した避難訓練を実施している。今後は、町会の防災体制の構築をして頂く予定でそちらと協同していきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36 (14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった話し方や対応を心がけている。また、年長者である利用者に失礼の無いように、子ども扱いせず敬意をもった対応で接している。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食・買い物の行事を年2回行い、場所の決定や食べに行きたい物などを入居者様と日常生活の中で話し合い、自己決定を促し個別に対応を行なっている。水分摂取時には、飲みたい物を自己決定して頂く等、日常生活においても自己決定を働きかけている。しかし、「今すぐ衣類を買い物に行きたい。」「今すぐ家に帰りたい。」等の希望を、その時その時ですぐに対応できていない時もある。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を通して、時間に追われるよう感じる事の無いように配慮し声掛けを行い自由な過ごし方を優先している。また、入居者様の訴えを業務があるからと言って後回しにせず柔軟な対応を心がけている。しかし、「今すぐ衣類を買い物に出かけたい。」「今すぐ家に帰りたい。」等の希望をすぐに対応出来ない時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に1回は理容師の方にホームへ来ていただいております、今では顔なじみでもある。入所前からの付き合いなどのある理美容院に出掛けられる方もおられる。また、季節にあった服装を声掛けにて行なっております。また、買い物行事を年2回行い、自分の買いたい衣類を購入できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士によるカロリー計算のされた献立になっている。食事の仕度、片付けなどはお手伝いをして頂ける利用者とともにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の合計は、毎日の記録として記入し保存している。食事について摂取量を記録している。また、好き嫌いについても、委託の栄養士さんにより別メニューの提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣などにも配慮し口腔内の清潔保持ができています。三食の食後にうがいと義歯洗浄を促し、清潔保持を行い、夜間は、洗浄剤を自ら管理できない方へは、職員が本人から同意を得て管理を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のコントロールが困難な方においては、本人に介助しても良いか、その都度、確認を取って介助を行い、プライバシーの配慮を行なっています。失禁に関しても、身体の老化が原因なのか、トイレの場所がわからずに失禁してしまうのかなど、その方にあったケアの検討をし、自立を目指している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の記入シートを作成し、活用している。水分の摂取量にも配慮し、日中の運動なども取り入れ、便秘になる前の対策に力を入れている。また、排便の有無を日中に2回ほど行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	各ユニットで、曜日をずらして、その時々 の都合により、どちらでも入浴できるよう 配慮している。また、一人ひとり、入浴時 間と好みのお風呂の温度が違うので、そ の人に合わせて入浴していただいでい る。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	日中の傾眠や夜間の不眠に関し ては、医師との情報交換・相談を し、必要であれば眠剤の服用など の指示を仰いでいる。また、日中 の活動時間の見直しなども個々 に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとり が使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解し ており、服薬の支援と症状の変 化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋は個人ファ イルに保管し、内容を把握でき ている。処方箋の変更時には、 変更のあった薬を他の職員に も周知している。また、介護 施設に対して意見を聞いてい ただける薬局との契約を家族 の了承を得て、誤薬の発生が 起きないように配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている	ご本人様の趣味活動等を把握 したり、出来る事をやっていた り、希望になるべく沿えるよう 援助している。また、ご本人 様の生活歴を把握し、出来る ことを援助しながら働きかけ ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけるように支援して いる	年間行事をたてて、定期的な 外出をされている。また、近 隣のお店まで歩いて買い物 に行ったり、車で行ったりし て買い物されている。また、 地域の方々との交流も当事 業所前の花壇の手入れ等を通 して行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこ との大切さを理解しており、 一人ひとりの希望や力に応じ て、お金を所持したり使える ように支援している	一部のご入居者様は、自己管 理(小銭程度)をされている方 もおられるが、買い物等の 支払いは職員が行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の都合の良い時間帯を事前に聞き、電話をかけられる方には直接かけて頂き、そうでない場合は、職員が対応している。電話をかけたい時や手紙を出したい時などにこちらの都合などで拒否することはしていない。また、居室に電話回線を準備しており、持ち込みも可能となっている。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけを行なっている。また、出窓には季節感のある植物を配置している。テレビ前の共用スペースは家庭的な雰囲気作りに配慮している。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではソファにて談笑されたり、また、テーブル席などでお茶を飲みながら団欒される方もおられ、思い思いに過ごされる環境ができています。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人の使い慣れた家具等持参していただいている。また、家族との写真を壁面に飾ったり、大切な方の位牌を持参される方もおられる。また、冷蔵庫やテレビの持ち込みも可能である。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の体力等が低下を少しでも抑えるために、職員と共に長生き体操や、丸つけ運動、嚥下体操を行なっている。また、トイレや風呂等がわかりやすいように、名前や絵を貼って、安全確保に努めている。		